



2019年度国際研修プログラム（派遣） （米国・ニューヨーク）

募集要項

- ・ 研修日程：2019年9月の4週間、または2020年1～2月の2ヶ月
- ・ 研修場所：City University of New York (CUNY) のカレッジ（17校）のいずれか
- ・ 引率：グローバル工学教育推進機構国際教育部門の教員（引率は往路のみ）
- ・ 対象及び募集人数：学部生、大学院生、計10名程度
- ・ 応募締切日：2019年5月31日（金）
- ・ 自己負担経費：※本研修については固定額のプログラム参加費はありません。航空代金以外の費用は自己負担となります（航空券は大学側で一括手配します。）
（自己負担となる費用の例）
 - ・ 研修期間中の現地宿泊費、現地移動費、食事代等（15万円/月程度は最低必要）
 - ・ 自宅から空港までの往復国内交通費、パスポート取得費用、国内宿泊費（前後泊が必要となる場合）
 - ・ 海外旅行保険料：本学指定の海外旅行保険（学研債の付帯海外保険）に、必ず加入してください。
 - ・ 危機管理サポート登録費用：本学指定の危機管理サポートに、必ず加入してください。
- ・ 主催：グローバル工学教育推進機構

研修内容について

■ 研修内容：

- ・ 本プログラムはツアー型の研修ではなく、CUNYのカレッジ（17校）のいずれかの研究室に短期滞在し、自分の習得したい研究スキルや実験機器について学ぶ研修です。
- ・ 研究室のマッチングは取りまとめ担当教員のRyan Eugene准教授が行います。マッチングに関する希望や詳細はRyan Eugene准教授（eugeryan@gmail.com）まで直接お問合せをお願いします。
※ 応募時までにマッチングが成立している必要はありません。
※ City College, Queens College, Lehman Collegeの3つのカレッジ内の研究室が、最もマッチングが容易です。
※ 本プログラム応募後、CUNYに英語の履歴書及び研究計画書を提出する必要があります。

■ 宿泊施設：

本プログラム参加者は各自で宿泊施設を探し予約する必要があります。（カレッジによっては、キャンパス内の宿泊施設を提供している場合もあります。）低価格の宿泊施設を探すためには、以下のサイト等を参考にしてください（部屋はシェアの場合があります。）

- ・ Airbnb.com（<https://www.airbnb.jp>）：世界的な民泊サイト。
- ・ Mixb（<https://nyc.mixb.net/>）：ニューヨークの住まい・生活情報等のクラシファイドサイト。
- ・ JCSA（<http://jcsa.com/index.php>）：ニューヨークのシェアアパートを紹介する会社。

また、宿泊施設の予約に関して、CUNY留学経験者からアドバイスが欲しい場合は、以下のFacebookグループから質問をお願いします。

- ・ Facebookグループ「羽ばたけ！TUT 情報交換広場」
（<https://www.facebook.com/groups/HabatakeTUT/>）

■ プログラム概要：

- 1日目：引率の教職員とともにニューヨークへ移動（全員同便）
- 2日目以降：CUNYの各研究室に別れ、研究開始（この時点で引率教員は帰国）
- 最終日：ニューヨークから帰国（全員同便）

CUNY留学経験者からのメッセージ

1. 豊橋技術科学大学大学院OB 川口佑磨

ニューヨーク市立大学で2回渡航し、修士修了後、PhD進学を決めました。僕にとってニューヨークの魅力は、異文化が混ざり合った空間であることです。これまで20カ国ほど渡航してきましたが、これほど多くの背景を持った人が集まる場所は今まで見たことがありません。研究者もいれば、起業家、芸術家、移民したきた人、すごいお金持ちもいれば、ホームレスの人もいます。

僕が所属する研究室も中国人、オーストリア人、アメリカ人、インド人、ロシア人など、とても多様な研究者と高い水準で研究を進めることができます。それに、観光する場所も、様々なイベントもたくさんあるので、めちゃめちゃ楽しいです。興味があれば、いつでも僕まで連絡ください！



2. 二系 修士二年 松田研究室 前川啓一郎

私は修士1年の終了後、一年間休学してニューヨーク市立大学リーマン校のAndrei Jitianu研究室で約10か月の研究留学をしてきました。留学先では、私が技科大の研究室でやっている研究テーマとはガラッと変わり、新しいアプローチでの研究にチャレンジしました。そんな私がNYでの留学を終えて、留学して本当に良かったと思う点がいくつかあります。

一つ目は、自分の力に自信を持てるようになったこと。留学前は、アメリカ人と英語を使って研究、渡航前はとてもすることにハードルを感じ、とても不安でした。しかし、研究で使う英語は意外とシンプルで、英語論文を読んである程度の専門用語が頭に入っていれば問題なく研究ができます。アメリカ人は皆英語ペラペラだと思われがちですが、特にニューヨークは非英語圏からの移民が多く、英語を完璧に話せる人ばかりではないので、文法が完璧な英語を話せなくても普通です。日本で研究をやっていた時と同じようにアメリカで研究を進めて、成果を出せたときはとても嬉しく、研究者としてすごく自分に自信が持てます。

二つ目は、視野が広がり、将来の選択肢が無限に広がったこと。ニューヨークには沢山の国から様々な職業や国籍を持つ人々が集まっていて、そんな人たちと会えるような機会が沢山あります。私の場合は、英会話サークルで英会話の練習や文化交流をしたり、スポーツコミュニティでサッカーをしたりして、様々な人々と話をする機会をつくっていました。生き生きとした人達と出会う中で、自分の将来をもっと自由に考えることができるようになること間違いなし！

三つめは、生活がとにかく楽しいこと。ニューヨークには様々な文化が交じり合っていて、ルームシェアの家では住んでいるだけでもいろんな文化が体験できます。ニューヨークの街は歩いているだけで映画の中の世界にいるような気分です。そんな場所で自分のやるべき研究を持って取り組むのは最高にやりがいがあり、楽しかったです。また、生活していく中で会話に慣れていき、現地人に英語で会話できた瞬間はとても嬉しいです。

私は留学中の研究で、日本だけでは気づけなかった研究の楽しさに気づき、Ph.Dへの進学を決めました。留学おすすめですよ！

